

税金の大切さ

向原中学校 三年 帯刀 千颯

僕はよく買い物に行きます。一人で行くことも多く、自分でお金を払うこともあります。そのため、普段から消費税を払っています。消費税はいつからあり、何に使われているのが気になったので調べてみました。

まず、初めて消費税が導入されたのは、一九八七年四月一日で、竹下登元総理が三%で始めました。しかし、一九九四年十一月には村山富市元総理が三%から四%になり、一九九七年四月には橋本龍太郎元総理が五%に、二〇〇四年四月に安倍晋三元総理が八%、二〇〇九年十月に十%に引き上げられました。

なぜ、このように消費税が引き上げられているかと言うと、社会保障制度があり、その財源は保険料や税金にたよっています。子や孫などの将来世代に負担を先送りしてしまいました。そして、今の日本は少子高齢化が進み、社会保障費は増え続け、税金に頼る部分も増えていきます。安定的な財源を確保し、社会保障制度を次世代に引き継いでいこうと言う思いがあり、十%に引き上げられました。

この消費税が十%になり、高いなと思う人もいます。しかし、世界的に見るとこれは高い方では

ありません。他に十%くらいのは韓国やインドネシア、シンガポールなどがあり、消費税が高い国はデンマークやスウェーデン、ノルウェーで、二十五%であり、北欧の国々は消費税が高く、逆に消費税が低い国は、タイランドや台湾で五%ほどです。また、アメリカでは消費税とは言わず、sales tax(売上税)と呼ばれており、これは州ごとに違います。

日本の税金の使い方には、救命活動や警察の活動に使われていたり、ゴミの回収や処理のためにも使われています。また、税金は日本国内だけでなく、世界のためにも色々使われていて、お金を貸してあげるだけでなく、ダムや道路、病院をつくったり、病院で使う薬や注射器などを送ったりする政府開発援助・ODAという活動にも使われています。

消費税が高いデンマークやフィンランド、スウェーデンなどの北欧では、医療費が無料だったり、大学までの学費が無償だったり、出産費用が無料で、十六歳になるまで金銭的な援助を受けられたりもします。

今回このように、消費税について詳しく調べてみて、よく消費税が上がるのを批判しているところを見かけますが、なくなったら無くなったで困ることが多くあることと、世界的に見ると日本の消費税はあまり高い方ではないことがよくわかりました。また、税の仕組みは複雑だけど簡略化されていて、シャープ勧告などがあったからこそ、しっかり考えられていて、凄いなと感じました。僕は商業高校を目指しているので、もっと色々な税について学んで行きたいと思いました。